

学び舎通信

12月号

町内小中学校の情報を
毎月お届けします



大中

志集会〜先輩から学ぶ〜

大河原中学校では、志集会の一環として「志集会」を行っています。10月19日には、大河原中学校の卒業生でローラーアートアーティストのさとうたけしさんをお迎えしました。中学校時代のお話、19歳のときに単身で渡ったアメリカでの苦労、常に新しいことに挑戦していることなど、たくさん興味深いお話を伺うことができました。何よりも、ライブパフォーマンスでローラー一本から表現される壁画の素晴らしさに驚かされ、魅了されました。まるで魔法を見ているようでした。生徒たちからの質問にも気さくにお答えいただきました。偉大な先輩の姿に大いに刺激をいただきました。

金中祭 ROAD 〜共に挑み、突き進む〜

10月16日、金中祭を一般の方々にも公開しました。今年度は新しい体育館で行った初めての金中祭になりました。英語暗唱や弁論、全校合唱、各学年の総合学習の発表と続き、午後は吹奏楽部のミニコンサートや後日祭で一般の方々に喜んでいただきました。全校生徒でアイディアを出し合い、工夫を凝らし創り上げた今年度の金中祭、例年以上に一致団結して上級生が下級生をリードし、一人何役も役割をこなし準備を重ねました。閉会時の生徒たちの顔は満足感と達成感に満ちあふれていました。金中生はこれからも共に挑み、突き進んでいきます。



金中

暗唱大好き

シリーズ⑧ 大小編

「はっきり話す」 「しっかり聞く」 〜暗唱発表会〜

「ここに川がある おおらがでやさしい川がある」児童の声が体育館に響き渡りました。暗唱発表会(11月2日)の一幕です。本校では、児童が楽しんで暗唱に取り組み、知的財産を増やすために「おおらがらの暗唱読本「寿限無」」の暗唱に取り組んでいます。11月が「みやぎ教育月間」であり、また第2学期の目標が「はっきり話す」であることから、暗唱発表会を行っています。



発表会では、学年全員で掛け合いをしたり学級ごとに分担して発表したりするなどの工夫がありました。なかには、全校児童の前で長い文章を一人で堂々と発表する児童もいました。聞いている児童も他学年の発表を期待に胸を膨らませ聞いていました。御参観いただいた保護者のかたから、「情景が浮かんでくるように発表していました。」「真剣に聞く態度にも感動しました。」「などの感想をいただきました。



大小 大河原小学校音楽発表会

10月29日に、本校体育館で音楽発表会を行いました。児童は、お世話になっているかたへの感謝と難しことへの挑戦の気持ちを持ち、練習に取り組みしました。大河原町文化協会邦楽部の皆さまや学校支援ボランティアの方々には専門的に御指導いただきました。発表会では、ジャズやサンバ民謡など様々なジャンルの音楽に挑戦しました。教職員も合唱に挑戦しました。御参観いただいたかたから、「涙が止まりませんでした。」「子どもたちの力はすごいですね。」「などの感動の言葉をいただきました音楽発表会でした。

6年特別授業「巡検」

11月7日、元大河原中学校校長小荒井太一先生を招いて、「金ヶ瀬の大地のつくり」について学びました。橋本地区、馬取山、青木、白坂方面の地層を実際に見てきました。橋本地区では、ノジュールという、地層にほこぼこした丸いものが多いこともありました。その中を割ってみると何と中からホタルの化石が出てきました。昔、この土地が海であったということを確認でき、児童も驚きを隠せませんでした。さらに、青木のところでは、ピノライト(雨の化石)を夢中になって探しました。8千万年前からの金ヶ瀬の地を知ることができ、金ヶ瀬というふるさとの素晴らしさを肌で感じる学習になりました。



金小

4年生を対象にアウトリーチ事業が行われました。チューチュートレインの曲に乗ってヒップホップダンスを踊りました。指導者は、ダンサーの「SOPP(ソップ)さんです。今の気分は?」準備はいいかい?」と児童に寄り添う言葉をかけて、心を解放していきまします。児童からは、ダンスを終えて「いろいろな踊りを教えてくれてありがとう。」「さいました。」「また来てください。」「という感想が述べられました。はじける笑顔でひたすらダンスに没頭したひとときを過ごしました。



南小

ときめーきを 運ぶーよ アウトリーチ!

身近な自然再発見

…人間と共生する昆虫たち…



▲名前は???

32 文学作品と昆虫

「ハッセと中学生とガ」

突然ですが、ここでクイズです。「全国の中学1年生なら誰でも知っているガの名前は何でしょう?」ヒントは、ヘルマンヘッセが書いた「ある日の出来事」という小説です。

この小説は、2人の少年と美しいガをめぐる出来事を大人になった少年の1人が回想するという短編小説です。

少年は友達が持っていた美しいガの標本を目の前にして、衝動的に盗んでしまいます。でも、家に帰った少年は自責の念にかられ、その標本を握りつぶしてしまつたのです。

その後、盗んだことを友人に告白した少年は、相手の少年から思いもかけない言葉を返

されます。「結局、君はそんな人間だったのだね。」と言っただけで、盗んだことを責められなかったのです。

非難されて当然と思っていた少年は、かえって自分を恥ずかしく思います。そして、集めた自分の標本を全部捨ててしまい、昆虫採集をやめてしまいます。

虫に限らず、美しいものを自分のものにしたいという欲望を抑えることは大人でもなかなか難しいものです。盗みは悪いと分かっていますが、手を出してしまうのが人間の弱さです。思春期に揺れ動く中学生たちの心に響く作品ではないでしょうか。

さて、お待たせしました。今回のクイズの答えは「クジヤクヤマムシ」です。日本にもいるヤマムシガの仲間です。ヨーロッパに分布する小型で目玉模様がカッコいいガです。

中学校の国語の教科書に掲載されているので、中学生なら見覚えがあることでしょう。今回は、皆さんの背中で見守っている虫たちの話です。

元金小校長、昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん